

第 55 回 京都府学校保健研究大会

報告 副会長 大村洋子

講演 演題 「災害に強い社会を実現するために」

講師 兵庫県 震災・学校支援チーム (EARTH) 研究・企画班長

兵庫県立神戸鈴蘭台高等学校 主幹教諭 浅堀 裕

アース・・・震災・学校支援チーム

EARTH: Emergency And Rescue Team by school staff in Hyogo

16 年前、阪神淡路大震災より、活動。構成人数、150 人くらいで、全国に発信。

学校を早く再開するための避難所、運営の仕方: EARTH のハンドブック

(兵庫県教育委員会の HP で、ダウンロードができる)

いざという時の Q & A (99 項目) より、抜粋 (大震災に備えて)

- Q. 理科室の薬品類が散乱し、危険な場合は?
- Q. 医療機関の開設・受け入れ状況の情報収集は?
- Q. 仮設トイレが汚物等で使用できない時は?
- Q. 食中毒が発生した時は?
- Q. 伝染病が発生した時は?
- Q. 重病人が出た時は?
- Q. ペットを持ち込みたい者がいた時は?
- Q. 飲酒・喫煙やゴミ等のルール作りをする場合は?
- Q. 避難所の照明調節は?
- Q. 学校給食再開の手順と配慮は?

御影高校は、阪神淡路大震災の 4 月以降、グラウンド全面に仮設校舎を建てられて、約 2 年半の間、そこで授業が行われた。学校が避難場所になっている場合、どの場所を、開放区域にするかあらかじめ明示する。(例: 保健室は、本来の目的のように使えるようにした方がよい) 早く、学校を再開のために、行政に任せられる部分は、任せる・・・という考えで行動。

* 災害に備えて、学校が避難場所になる。その場合、どういう事があらかじめ必要なのか、ある程度想定し、先人の教を参考にしながら、備えていくことが、大事であると思った。

第 3 分科会 保健管理

宇治、城陽、久御山学校保健会 岡田 順子先生 (宇治市西小倉小学校)
食物アレルギー調査について、発表があった。

宇治市立小学校 22 校 (10,927 人) のアンケート調査により発表。

食物アレルギーの児童は、約 320 人 (3%)

アナフィラキシーを、おこす可能性のある児童は、9 校 14 人

* エピペンを持参している児童・・・2 校 2 人

低学年の児童: 毎日学校に、持ってきて持って帰る。担任の先生は、クラスの生徒に、食物アレルギーの概要および命を守る大事なものが、カバンに入っている事を、説明している。

家が、学校より 5 分位と、近くなので、母親が緊急の時は、エピペンを持参することになっている。母親がいないとき、宿泊学習のときは、本人が持参する。



(平成 23 年 9 月より、保険適用)

* 小児科専門医を招いての研修会を実施した

(原因物質について、食物アレルギー症状について、治療の原則について現場での対応について、アナフィラキシーについて、エピペンについて食物アレルギーの予防について等)

* エピペン以外で、薬品を持参している児童・・・11 校 12 人

セレスタミン・ステロイド剤 等 表示をして、冷蔵庫に保存している。

てんかんの児童・・・坐薬の使用について、主治医のところへ行って、どういう時に使用するか、話を聞いている。

エピペン取扱いについて・・・主治医・学校長など、話し合いをしている。

今後の課題

- ・養護教諭は、何回も研修をうけているが、他の教諭には、研修はしていない。
- ・各学校で、どのように、エピペンを持っているか対応が違う
- ・エピペンを、誰が管理して誰が注射を行うのか。
- ・ショック症状の判断は、どのようにするのか。
- * まだ使用した事例は、起こっていないが、いざと言う時、うまくできるか心配だと話された。

文責 京都府学校薬剤師会 守谷まさ子